

2025年度 町田市立南成瀬中学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和8年3月31日

|  |  |   |
|--|--|---|
| 学校教育目標   | 共生 自立 貢献   | 学校経営の重点 (1)確かな学力の定着(2)心を育てる教育(3)健やかな体の育成(4)キャリア教育の充実・発展(5)特別支援教育の充実(6)生活指導の充実(7)不登校対策(8)保護者・地域との連携強化(9)服務厳正の徹底(10)教職員の心身の健康と力量形成  |
| ○目指す学校像………偏見、差別、いじめ、暴力がなく、優しさと思いやりにあふれた学校(共生) 生徒一人一人が自ら歩みを進め、力を養う学校(自立) 多くの人と喜びや達成感を共有し、よりよい社会を築いていく学校(貢献) | ○目指す児童・生徒像………自他の生命を尊重し、多様な価値観を認められる生徒(共生) 自ら考え判断し、たくましく行動できる生徒(自立) 社会性を身に付け、周囲の人と協働できる生徒(貢献) | 重点目標の成果と課題【成果】「共生・自立・貢献」の教育目標を定めて二年目を迎えたが、教職員、生徒、保護者にはさまざまな機会に教育目標の内容を諸活動と結び付けて説明し、全校で教育目標を意図した教育活動を展開することができた。生徒に地域貢献活動に積極的に取り組ませ、保護者・地域との連携を強化できたことは一番の成果である。キャリア教育については、国際理解・キャリアデザイン・地域貢献の3本の柱を確立させることができた。【課題】確かな学力の向上については、家庭とより連携して学習習慣の確立を図ってきたい。心を育てる教育については、特に情報モラルの面で取組を一層充実させなければならない。また、体力面を向上させる活動については質・量ともに内容の検討が必要である。 |

| 領域             | 教育プランに基づく経営目標   | 中期・短期経営目標                  | 具体的方策  | 取組指標   | 平均 | 評価 | 成果指標   | ○% | 評価 | 分析コメント  | 改善策  | 学校関係者評価記入欄   | 評価   |   |
|----------------|---|----------------------------|--|--|----|----|--|----|----|---|--|--|--|---|
| 社会に開かれた教育課程の実現 | 目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共生・連携した教育課程を実施する。  | 保護者や地域から信頼される学校づくり         | 本校の教育方針・教育活動を保護者や地域の方々にご理解いただくために、学校公開や保護者会等を設定し、多くの方に学校の様子を参観していただく。    | 4 保護者・地域の方々が教育活動を参観できる機会が年12回以上<br>3 保護者・地域の方々が教育活動を参観できる機会が年9回以上<br>2 保護者・地域の方々が教育活動を参観できる機会が年6回以上<br>1 保護者・地域の方々が教育活動を参観できる機会が年6回未満    | 4  | A  | A 学校評価アンケート「ア」④「学校公開」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート「ア」④「学校公開」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート「ア」④「学校公開」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート「ア」④「学校公開」肯定的評価 60%未満             | 99 | A  | ・学校公開は多くの機会を設けることができ、十分満足な成果が得られた。  | ・学校公開は今年度並みの機会を設定する。   | ・地域ボランティア活動への参加は、生徒にとって地域貢献の意義を実感できる貴重な機会であり、地域にとっても地域の活性化につながる重要な取組である。次年度も引き続き推進しつつ、さらにより一層の情報発信を行う。 | A  |   |
|                |   |                            | 学校の教育活動をより身近に捉えていただくために、学校・保護者間連絡システムや学校ホームページ等を活用し、学校の様子を積極的に情報発信する。    | 4 学校ホームページの更新が週3回以上<br>3 学校ホームページの更新が週2回以上<br>2 学校ホームページの更新が週1回以上<br>1 学校ホームページの更新が週1回未満   | 4  | A  | A 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 60%未満             | 96 | A  | ・全校を挙げて外部人材の活用を推進し、学校と地域が協働して教育活動を行うことができた。   | ・授業での外部人材の活用については、進路研究部を中心に3年間を見通して積極的に取り組むこととしている。              | ・外部人材の活用を積極的に行うことができ、キャリア教育の充実につながっていることと評価できる。  |  |   |
| 社会に開かれた教育課程の実現 | 目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共生・連携した教育課程を実施する。  | 保護者や地域との双方向による連携体制の構築      | 地域人材を積極的に活用し、本校の教育活動に地域の方々が直接関わる機会を設けて学校と地域が協働して子どもを育成する環境を整える。          | 4 地域人材を活用した授業の実施が各学級年9回以上<br>3 地域人材を活用した授業の実施が各学級年6回以上<br>2 地域人材を活用した授業の実施が各学級年3回以上<br>1 地域人材を活用した授業の実施が各学級年3回未満                         | 4  | A  | A 学校評価アンケート「ア」①「地域人材」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート「ア」①「地域人材」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート「ア」①「地域人材」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート「ア」①「地域人材」肯定的評価 60%未満             | 90 | A  | ・地域ボランティアに生徒は参加するよう変更しているが、目標数にはまだ及ばない。保護者からは一定の評価をいただくことができた。                      | ・地域ボランティアへの参加が全校生徒の6割以上  | ・保護者アンケート結果から、学校公開・ホームページの更新等、開かれた教育課程は、実用化していることと評価される。   | A  |   |
|                |   |                            | 地域ボランティア活動や地域課題についての学習を通して、社会の構成員として地域に主体的に参画し、貢献しようとする生徒を育成する。          | 4 地域ボランティアへの参加が全校生徒の4割以上<br>3 地域ボランティアへの参加が全校生徒の2割以上<br>2 地域ボランティアへの参加が全校生徒の2割未満<br>1 地域ボランティアへの参加が全校生徒の2割未満                             | 2  | C  | A 学校評価アンケート「ア」②「地域と一体」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート「ア」②「地域と一体」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート「ア」②「地域と一体」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート「ア」②「地域と一体」肯定的評価 60%未満         | 79 | B  | ・授業でのねらいの提示、振り返りの設定は、確実に実行されているが、校内研修等の機会に繰り返し徹底を図る。各教科ごとに基礎基本の定着を図るための方策を定めるようにする。 | ・朝読書は年間を通して計画的に実施することができた。生徒はかなりの集中して朝読書に取り組んでいる。                | ・タブレット端末は日々の学習活動によく活用されているが、その様子が保護者には十分には届いていない。  |  |   |
| 確かな学力の育成       | 子どもが主体的に学ぶ授業改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。 | 生徒の学習意欲の向上                 | 学習課題やねらいの提示、振り返りとともに、「価値ある対話の共有」を授業場面で意図的に設定し、自ら学び、協働して課題を解決できる生徒の育成を図る。 | 4 ねらいの提示、振り返りの設定が全授業の9割以上<br>3 ねらいの提示、振り返りの設定が全授業の8割以上<br>2 ねらいの提示、振り返りの設定が全授業の7割以上<br>1 ねらいの提示、振り返りの設定が全授業の7割未満                         | 4  | A  | A 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本」肯定的評価 60%未満             | 72 | B  | ・朝読書は年間を通して計画的に実施することができた。生徒はかなりの集中して朝読書に取り組んでいる。                                   | ・タブレット端末は日々の学習活動によく活用されているが、その様子が保護者には十分には届いていない。                | ・図書室の利用を促進するには現在の昼休みだけではなく放課後の貸し出しも可能にする環境を整えたい。   | B  |   |
|                |   |                            | 毎朝の読書活動を通して読書習慣を身に付けさせるとともに、書評についての意見交換を行い、読書に親しみ態度を育成する。                | 4 朝読書の実施が年150回以上<br>3 朝読書の実施が年130回以上<br>2 朝読書の実施が年110回以上<br>1 朝読書の実施が年110回未満   | 4  | A  | A 学校評価アンケート(生徒)「イ」③「読書」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート(生徒)「イ」③「読書」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート(生徒)「イ」③「読書」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート(生徒)「イ」③「読書」肯定的評価 60%未満     | 84 | A  | ・タブレット端末は日々の学習活動によく活用されているが、その様子が保護者には十分には届いていない。                                   | ・図書室の利用を促進するには現在の昼休みだけではなく放課後の貸し出しも可能にする環境を整えたい。                 |  |  |   |
| 確かな学力の育成       | 子どもが主体的に学ぶ授業改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。 | ICTの活用による生徒一人一人の学力の向上      | タブレット端末を活用し、探究的、対話的、協働的な学習による生徒の「課題発見力・解決力」や「情報活用能力」を育む。                 | 4 生徒一人一人のタブレット端末の使用が年150日以上<br>3 生徒一人一人のタブレット端末の使用が年130日以上<br>2 生徒一人一人のタブレット端末の使用が年110日以上<br>1 生徒一人一人のタブレット端末の使用が年110日未満                 | 4  | A  | A 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT」肯定的評価 60%未満                 | 58 | D  | ・タブレット端末は日々の学習活動によく活用されているが、その様子が保護者には十分には届いていない。                                   | ・図書室の利用を促進するには現在の昼休みだけではなく放課後の貸し出しも可能にする環境を整えたい。                 | B  |  |   |
|                |   |                            | クラウド型学習支援コンテンツ、学習者用デジタル教科書等の活用を推進を通して、家庭と協力して知識・技能の習得に向けた学習内容の理解を深めさせる。  | 4 Qubenaの年間取組時間の平均が200時間以上<br>3 Qubenaの年間取組時間の平均が150時間以上<br>2 Qubenaの年間取組時間の平均が100時間以上<br>1 Qubenaの年間取組時間の平均が100時間未満                     | 4  | A  | A 学校評価アンケート「イ」②「家庭学習」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート「イ」②「家庭学習」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート「イ」②「家庭学習」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート「イ」②「家庭学習」肯定的評価 60%未満             | 62 | C  | ・タブレット端末は日々の学習活動によく活用されているが、その様子が保護者には十分には届いていない。                                   | ・図書室の利用を促進するには現在の昼休みだけではなく放課後の貸し出しも可能にする環境を整えたい。                 |  |  |   |
| 豊かな心の涵養        | 自分の考えを伝え、他人の考えを理解するとともに、多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にしようとする意識・意欲・態度を育てる。                            | 円滑な社会生活に向けての人権尊重の理念に基づいた指導 | いじめは絶対に許さないという土壌をつくるため、朝会、学年集会、学級活動等の機会だけでなく日常のあらゆる場面で生徒に働きかけを行う。        | 4 いじめ防止をテーマにした授業の実施が各学級年5回以上<br>3 いじめ防止をテーマにした授業の実施が各学級年4回以上<br>2 いじめ防止をテーマにした授業の実施が各学級年3回以上<br>1 いじめ防止をテーマにした授業の実施が各学級年3回未満             | 4  | A  | A 学校評価アンケート「ウ」①「子どもの人権」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート「ウ」①「子どもの人権」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート「ウ」①「子どもの人権」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート「ウ」①「子どもの人権」肯定的評価 60%未満     | 83 | A  | ・いじめ防止についてはさまざまな場面で生徒が考える機会を設定しており、教員は生徒の人権を大切にしながら指導にあたっている。                       | ・情報モラルは学年により十分に扱えなかった。保護者も課題があると捉えている割合が比較的多い。                   | ・規範意識を高める取組は各学年とも繰り返し行い、全体としてはきまりを守る意識は醸成されているが、指導が行き届かない場面もある。  | ・上級生がよい手本となつて、下級生を引っ張る姿が学校生活の随所に見られた。生徒が企画・立案できる場面を多く設定することができた。 | A |
|                |   |                            | 日常的な指導を通して公共の場でのマナーを身に付けさせるとともに、道徳教育やセーフティ教室の機会に情報モラルについての意識を高めさせる。      | 4 情報モラルをテーマにした授業の実施が各学級年5回以上<br>3 情報モラルをテーマにした授業の実施が各学級年4回以上<br>2 情報モラルをテーマにした授業の実施が各学級年3回以上<br>1 情報モラルをテーマにした授業の実施が各学級年3回未満             | 3  | B  | A 学校評価アンケート「ウ」⑤「ネットマナー」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート「ウ」⑤「ネットマナー」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート「ウ」⑤「ネットマナー」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート「ウ」⑤「ネットマナー」肯定的評価 60%未満     | 70 | B  | ・規範意識を高める取組は各学年とも繰り返し行い、全体としてはきまりを守る意識は醸成されているが、指導が行き届かない場面もある。                     | ・上級生がよい手本となつて、下級生を引っ張る姿が学校生活の随所に見られた。生徒が企画・立案できる場面を多く設定することができた。 |  |  |   |
| 豊かな心の涵養        | 自分の考えを伝え、他人の考えを理解するとともに、多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にしようとする意識・意欲・態度を育てる。                            | 生徒の自尊感情や自己肯定感を高める指導        | 規範意識を身に付けさせることを通じて公共心を高める。また、生徒の成長を積極的に認め励ましていくことを通じて自尊感情を高める。           | 4 規範意識をテーマにした授業の実施が各学級年5回以上<br>3 規範意識をテーマにした授業の実施が各学級年4回以上<br>2 規範意識をテーマにした授業の実施が各学級年3回以上<br>1 規範意識をテーマにした授業の実施が各学級年3回未満                 | 4  | A  | A 学校評価アンケート「ウ」②「きまり」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート「ウ」②「きまり」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート「ウ」②「きまり」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート「ウ」②「きまり」肯定的評価 60%未満                 | 90 | A  | ・上級生がよい手本となつて、下級生を引っ張る姿が学校生活の随所に見られた。生徒が企画・立案できる場面を多く設定することができた。                    | ・下級生は上級生を見習い、上級生は下級生の手本となるように技能を磨くというよい循環を活性化させるため、他学年交流の機会を増やす。 | ・下級生は上級生を見習い、上級生は下級生の手本となるように技能を磨くというよい循環を活性化させるため、他学年交流の機会を増やす。                                       | A  |   |
|                |   |                            | 生徒主体の活動場面を多く作るとともに、学校行事で上級生が下級生に模範を示す機会を意図的に設け、望ましい人間関係の形成や集団の在り方を考えさせる。 | 4 上級生が下級生に模範を示す特別活動等の実施が年5回以上<br>3 上級生が下級生に模範を示す特別活動等の実施が年4回以上<br>2 上級生が下級生に模範を示す特別活動等の実施が年3回以上<br>1 上級生が下級生に模範を示す特別活動等の実施が年3回未満         | 4  | A  | A 学校評価アンケート(生徒)「生徒主体の活動」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート(生徒)「生徒主体の活動」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート(生徒)「生徒主体の活動」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート(生徒)「生徒主体の活動」肯定的評価 60%未満 | 92 | A  | ・上級生がよい手本となつて、下級生を引っ張る姿が学校生活の随所に見られた。生徒が企画・立案できる場面を多く設定することができた。                    | ・下級生は上級生を見習い、上級生は下級生の手本となるように技能を磨くというよい循環を活性化させるため、他学年交流の機会を増やす。 |  |  |   |
| 健やかな体の育成       | 生涯を通じて健やかに過ごすための運動習慣・正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実させる。  | 体力向上に向けた取組の推進              | 学校行事、屋外での遊び、部活動等、教育活動全体を通して運動に親しませる。特に体育祭に向けた取組の中で、集団で行う運動の楽しさを味わわせる。    | 4 運動に親しませる取組の実施が年15日以上<br>3 運動に親しませる取組の実施が年12日以上<br>2 運動に親しませる取組の実施が年9日以上<br>1 運動に親しませる取組の実施が年9日未満                                       | 4  | A  | A 学校評価アンケート「エ」①「運動スポーツ」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート「エ」①「運動スポーツ」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート「エ」①「運動スポーツ」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート「エ」①「運動スポーツ」肯定的評価 60%未満     | 74 | B  | ・生徒が主体となつて運動に親しむ機会をより多く設定し、自然に運動したくなる工夫を施した取組を展開していった。                              | ・特に投げる運動の数値が低いので、体育の授業では基礎的な運動能力の向上に努めたが、確実な成果には結び付けられていない。      | ・あいつの大切さを学校生活のさまざまな機会に指導を重ねるとともに、委員会活動を中心に生徒主体の取組を増やし、あいつが習慣として身に付けていけるようにする。                          | A  |   |
|                |   |                            | 保健体育の授業を中心に体づくり運動を継続的に取り、走る・投げる・跳ぶ力や柔軟性等をバランスよく身に付けさせる。                  | 4 保健体育の授業における体づくり運動の実施が全授業の9割以上<br>3 保健体育の授業における体づくり運動の実施が全授業の8割以上<br>2 保健体育の授業における体づくり運動の実施が全授業の7割以上<br>1 保健体育の授業における体づくり運動の実施が全授業の7割未満 | 4  | A  | A 全国体力・運動能力、運動習慣等調査「総合評価」B以上 60%以上<br>B 全国体力・運動能力、運動習慣等調査「総合評価」B以上 50%以上<br>C 全国体力・運動能力、運動習慣等調査「総合評価」B以上 40%以上<br>D 全国体力・運動能力、運動習慣等調査「総合評価」B以上 40%未満     | 42 | C  | ・あいつの大切さを学校生活のさまざまな機会に指導を重ねるとともに、委員会活動を中心に生徒主体の取組を増やし、あいつが習慣として身に付けていけるようにする。       | ・避難訓練の場面想定について、今まで以上にパリエーションをもたせて、避難訓練に向かう意識を一層高めさせる。            |  |  |   |
| 健やかな体の育成       | 生涯を通じて健やかに過ごすための運動習慣・正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実させる。  | 信頼して子どもを任せられる安全・安心な学校      | ・あいつの励行、時間厳守、適切な言葉遣い、整えられた身だしなみを生活指導の重点として徹底し、生徒の基本的な生活習慣を確立させる。         | 4 基本的な生活習慣に関わる委員会等の取組が年5回以上<br>3 基本的な生活習慣に関わる委員会等の取組が年4回以上<br>2 基本的な生活習慣に関わる委員会等の取組が年3回以上<br>1 基本的な生活習慣に関わる委員会等の取組が年3回未満                 | 4  | A  | A 学校評価アンケート「ウ」③「あいつ」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート「ウ」③「あいつ」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート「ウ」③「あいつ」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート「ウ」③「あいつ」肯定的評価 60%未満                 | 88 | A  | ・あいつの大切さを学校生活のさまざまな機会に指導を重ねるとともに、委員会活動を中心に生徒主体の取組を増やし、あいつが習慣として身に付けていけるようにする。       | ・避難訓練の場面想定について、今まで以上にパリエーションをもたせて、避難訓練に向かう意識を一層高めさせる。            | ・あいつの大切さを学校生活のさまざまな機会に指導を重ねるとともに、委員会活動を中心に生徒主体の取組を増やし、あいつが習慣として身に付けていけるようにする。                          | A  |   |
|                |   |                            | 臨場感のある避難訓練や、地震、浸水及び土砂災害等の場面を想定した引き渡し訓練、集団下校訓練を実施し、様々な非常事態の際の対応力を身に付けさせる。 | 4 臨場感のある避難訓練の実施が年5回以上<br>3 臨場感のある避難訓練の実施が年4回以上<br>2 臨場感のある避難訓練の実施が年3回以上<br>1 臨場感のある避難訓練の実施が年3回未満   | 4  | A  | A 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 80%以上<br>B 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 70%以上<br>C 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 60%以上<br>D 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 60%未満             | 93 | A  | ・あいつの大切さを学校生活のさまざまな機会に指導を重ねるとともに、委員会活動を中心に生徒主体の取組を増やし、あいつが習慣として身に付けていけるようにする。       | ・避難訓練の場面想定について、今まで以上にパリエーションをもたせて、避難訓練に向かう意識を一層高めさせる。            |  |  |   |
| その他            |   |                            |  |  |    |    |  |    |    |   |  |  |  |   |

|   |                  |                            |
|---|------------------|----------------------------|
| 取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)                    | 成果指標評価基準         | 学校関係者評価の評価基準例              |
| 取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A                          | 成果指標平均 80%以上⇒評価A | A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる         |
| 取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B                       | 成果指標平均 70%以上⇒評価B | B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい |
| 取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C                         | 成果指標平均 55%以上⇒評価C | C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要  |
| 取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D                            | 成果指標平均 55%未満⇒評価D | D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善   |
| ※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。               |                  |                            |
| ※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。 |                  |                            |